



全国連合退職校長会

会報



巻頭言

生きがいにつながるなら

副会長 (北海道地区)

黒坂 由紀子

新型コロナウイルス感染がなかなか予断を許さない中、各地区においても計画通りの事業推進に苦慮されていることと思います。

文部科学省が掲げる「GIGAスクール構想」は、実現に向けて、児童生徒一人一台の端末環境がほぼ整ったことで、その活用の検討に入ったところです。「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現には、活用が必要不可欠ではあります。しかし、デメリットも指摘されています。記憶力・読解力低下の懸念、脳や健康面への影響なども多く指摘されています。さらに、その活用を推進する教員のスキル向上に関わる研修の必要性も言われていますが、益々多忙化する教員への負担となるのが心配されています。児童生徒へのコロナ感染も拡大する中、端末の

持ち帰り学習やオンライン学習の工夫など、現場では、多くの課題と向き合いながら教育を進めている現状だと思えます。このような状況に対して、我々退職校長会としても、教育振興に寄与する理念の実現に向けて力注いでいく必要性を思います。もちろん、直接的な関わりには、多くの制約があります。しかし、空間・時間・人数などを制限しながら、支援していく方法を模索していかなければなりません。

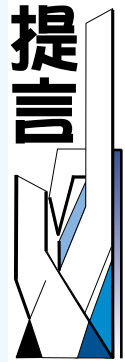
教員の研修充実をサポートして、児童生徒の学びに寄り添い、思いを拾いながら、最適な学びへつなげていくことなど学校との連携を密にしながら、進めていくことができればと思っております。

昨年6月にまとめた「教育再

生実行会議」の第十二次の提言では、子どもたち一人一人の幸せと共に、社会全体の幸せでもある「ウェルビーイング」の理念の目指す重要性が指摘されました。こうしたことを考えると、私たち退職校長会としてもICTの活用を工夫しながら教育支援活動を進めて、会としても会員をつなぐ手立てとして活用していくことが、会員の絆の強さにもつながり、生きがいにもつながっていくものと考えています。

昨秋に、北海道地区として「教育の日」制定記念行事を実施することができました。担当者の方の工夫により、リモート参加も取り入れての初めての会を開催することができました。広域な地区としてのつながりを考えるところとした実践の意義も感じることができました。

福原義春氏(資生堂名誉会長)は、「対面すること、対面しようとする努力することで、人間力は確実に強まる」と言っています。これからも、生きがいの豊かさにつながる事業展開を工夫していきたいと思っております。



今後の退職校長会の課題

副会長 (九州地区)

廣田 稔夫

ワクチン接種によりコロナも収束かと思いきや1月以降全国に急拡大している。各県退職校長会にとって今一番困っていることは、諸事業や活動が感染防止上制限されることである。これから先もコロナが収束に向かうのか新たな変異株の出現により感染が拡大していくのか見当がつかないのが現状であろう。これからの退職校長会は、コロナと共存していくのだという立場に立ち、コロナ禍での退職校長会のあり方を明確にし、今まで行ってきた諸事業や活動等を再検討していくことが求められているのではないだろうか。では、各県退職校長会が早急に検討しなければならないこと

は何だろうか。それは、コロナ禍において、どのような事業や活動ができるのかを、県・郡市退職校長会ともに検討し、会員が活動できる道筋を示すことであらう。

二つ目の課題は、退職校長会への入会者減、退会者増の傾向が近年みられ、コロナ禍の2年間でさらに拍車がかかっている。その原因は様々あると思われるが、この2年間の状況を見ると諸事業や諸活動の中止により、会員の活動する機会や場が少なくなったことが一番大きいように思われる。入会者減、退会者増の解消に向けて、会員が地域や学校で活動できる有効な方策を生みだしていくことが肝要であらう。

大分県退職校長会では、これまで実施してきた県や郡市の事業や活動がコロナ共存社会の中でも継続できるものなのか、会員が参加できるものになっていくのか等を令和4年度の重点課題に取り上げ検討を加えていきたいと思っている。

発展的解消と充実に期待

副会長 (関東甲信越地区)

松井 和夫

「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方について、令和3年11月「審議まとめ」は、

教員免許更新制を発展的に解消し、「新たな教師の学びの姿」を実現すると示しました。ホームページに「10の質問にお答えします！」とその見直し理由や今後の方向性など詳しく掲載しました。この発表は負担軽減につながると朗報と好意的に受け止められています。なお、免許状の有効期間や失効免許状の扱いなどの法制的観点は検討を深め、通常国会で法改正するとしています。また、資質能力向上の研究内容の充実、オンライン研修の拡充及び研修受講履歴の管理、学びの成果の可視化と組織的共有などを改善の具体的な方向性として示しています。

教員免許更新制は管理職や教職員の負担感増大、学校の働き方改革への影響、臨時的教員採用時の人員不足、失効問題など、数多くの問題が指摘され改善が望まれていました。

令和4年2月「教員不足、欠員深刻」、「教員採用試験倍率小学校26倍で過去最低」と教員のなり手不足が報道されました。倍率は採用数の増減で変化しますが受験者総数の統計では小・中・高校とも10年間連続して減少しています。教員労働環境は様々な要因からマイナスイメージが定着しています。複雑に絡んだ問題の解決を図り、教師として働く魅力と環境を整えるために、免許状を取りやすくする、働き方改革の推進、復職の促進、多様な人材活用など起死回生の人材確保・質向上プランが考えられています。

Society5.0時代に対応する長期的視野から充実に図るものとして大いに期待しています。

本会のコロナ下での現況

東京都退職校長会

会長 多田 丈夫

収束のメドの立たない新型コロナウイルスの戦いが続く。感染拡大で世界的にヒューマンショックが起り、社会の様相が一変した。未だ人々の不安と心理的圧迫感は大い。この間、東京都退職校長会は、会員の命と健康を最優先し、令和2年2月初旬、全支部に業務自粛の緊急連絡をした。以来、総会、会員研修会、支部長会等々の定例の事業は、他県と同様、延長または中止を余儀なくされた。やむなく、事務所も閉鎖することとなった。しかし、この危機的状況下でも安定した組織運営と41支部との意思の疎通に腐心した。まず、書面による総会、一斉メールによる支部長への連絡網の整備、テレワークによる諸会議の定例化、会長からのハガキによる業務報告、会報とHP

を駆使したスピーディーな情報提供等々の環境づくりを急いだ。7月にテレワークの実証実験に着手。今ではパソコンの画面に

役員が登場、本部の主要会議等が円滑に開かれている。技術に優れた役員がZoom操作のホスト役となり、心配していた業務の空白もなく、本部と支部との連携は停滞なく進んでいる。さて、本会の最大の課題は、

会員増強の一点にある。本部に特化したプロジェクトチームが組織の将来を見据え、現下の校長会や未加入者に対し、不退職の決意で入会促進への働きかけを強めている。また、2年後には創立70周年を迎える。今、〈組織の意思を未来に伝える式典〉と〈みんなて祝う70周年〉をテーマに準備を急いでいる。すべての会員と共に、厳粛で未来に繋ぐ尊い時間の再現を心から待望している。コロナ禍にあつて、いささかの狂いもなく我々の組織運営が続いている。

情報共有で確かな歩みを

新潟県公立学校退職校長会

会長 村山 信一

コロナ禍の中、運営や活動について厳しい選択が求められている。また、定年延長や退職者の意識の変化により入会率の低下が懸念される。難しい課題を抱えながらも、これを組織の在り方を見直す好機と捉え、新たな事業改善に取り組んでいる。

一 ホームページの開設

会員間や本部・支部間の交流が滞り、会の情報提供とその共有化の必要性が増している。そこで、ホームページを開設した。

「会報(情報)は組織の血流である」と訴え、情報提供の重要性を説いた先人に学び、会議や活動の状況を迅速に掲載・更新し、「県本部の見える化」に努めている。また、支部活動のサイトの特設し、支部の情報発信を通し会員相互の情報交流を深めている。さらに、ダウンロ

ードの頁を設け、本部と支部間の事務連絡をメールで行うなどして利便性と経費削減を図った。

二 リモート会議の推進

正副会長会など、対面とリモートを組み合わせたハイブリット方式で会議を実施した。旅費削減や移動に伴う時間的負担軽減など一定の成果が得られた。

三 エールメッセージの新設

組織の強化は最大の課題である。現職校長会との教育懇談会の実施や年二回の会報全員配布と共に、本年度から新任校長に激励の想いを込め「エールメッセージ」を届けた。自筆の添え書きを加え、校長の悩みや苦しみ共感し支援できる退職校長会の存在を伝えたのである。現職校長との不断の情報共有が円滑な入会勧誘に不可欠との支部情報に込め実施し好評を得た。新たな事業に着手すると共に、十年先を見据えて、事業の目的や内容、財源確保などの見直しを進め、円滑な会務運営ができるよう改善策を検討している。

愛知県退職校長会の歩み

愛知県退職校長会

会長 江本 隆

本会は、昭和41年5月に、会員相互の旧交を温め、あわせて愛知の教育振興に寄与することを目的として結成されました。同時に「全国連合退職校長会」に所属し、現在1796名の会員数となっています。

愛知県は、尾張・名古屋・三河に大きく区分されますが、本会結成以前も、それぞれの地区内で親睦を目的とした退職校長の会がありました。全連退が設立され、本県でも退職校長であっても、現職の校長会や愛知の教育を支援したいという声があり、3地区の代表者の方々が中心にして会が組織されるに至りました。結成当初は義務教育と高校教育が一体化されていましたが、運営に課題が残り、平成4年度に会則の改正とともに、小中学校退職校長による現在の会に変更されました。また、会

員の年限を退職後7年とし、組織の一層の活性化を図りました。平成29年度には、名古屋市への権限移譲により、愛知県小中学校

校長会から名古屋市中中学校長会が分離する事態が起きました。が、「愛知はひとつ」の思いのもと、本会は従来の組織体制を堅持することにしました。

さて、コロナウイルス感染者数の増加は、会の運営に支障を与えています。年度末の総会は2年続けて中止となり、令和3年度も厳しい状況です。会員への情報提供不足は、組織の弱体化につながりかねません。唯一の手段である会報を通して活動を理解してもらえよう、内容の充実を図りたいと考えています。

本県の喫緊の課題として「定年制の延長」問題があります。

本県独自の「7年会員」が抱えることと考えますが、会員数の減少につながる恐れがあり、慎重かつ早急に方向性を示さねばならないと捉えています。

絆づくり・生きがいづくり

滋賀県退職校長さざなみ会

会長 片山 智成

皇位継承という歴史を刻む令和の代の始まりは、「滋賀県退職校長さざなみ会」の創立50周年という記念すべき年であった。

本会は元来小・中・高退職校長の集まりであったが、後に高等学校とは別の道を歩むことになった。県下122地区の世話係と19名の代表世話係を中心に、①支部活動の活性化と組織・研修の充実 ②現職校長会との連携 ③「ふるさとの学校訪問」という三つの活動目標を掲げて活動を続けている。「ふるさとの学校訪問」とは、退職校長それぞれが、居住する地域の学校を「テーマ」を持って訪問し、校長と面談する事業である。退職校長は今日まで、「地域教育協議会」等の中心メンバーとなるなど、何らかの形で学校支援活動を続けてきたが、更に「退職

校長さざなみ会」として、積極的な地域社会への貢献を目指し発足した事業である。しかし、2年続きの感染症対策のため、残念ながら、活動中止となっている。本会の特筆すべき事業は、全会員による消息集「さざなみ」の発行である。昭和44年に「滋賀県小中学校退職校長消息集」として自費発行・贈呈が行われ、令和4年5月には第54号が発行予定である。原稿依頼に始まり・原稿回収・点検と確認・構成と編集・印刷所への送付・印刷・消息集配布等の一連の作業は、脈々と続くさざなみ会の歴史作りであり、絆づくり・生きがいづくりでもある。今日までの消息集巻頭言テーマは、

「継承と発展」、「学校教育の応援者」、「絆づくり・生きがいづくり」、「ふるさとの学校訪問」、「コロナ禍の絆づくり」となっている。就任当時の本会充実発展に向けた思いと会員への期待・呼びかけである。

令和4年度 文部科学省予算案

—— 初等中等教育局関係の概要 ——

総務部長 田中 昭光

政府は令和4年度の教育予算（案）を決定しました。

今年度はコロナ感染予防対策のための説明会がオンラインで実施されました。以下、予算概要の資料から一部を報告します。

一 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた教師等の指導体制の充実

1、義務教育費国庫負担金 (1兆5015億円) (150億円減)

《教職員定数の改善》 (+4690人)

・ 小学校高学年の教科担任制の推進 (+950人)

・ 小学校における35人学級の推進 (+3290人)

・ 教育課題（障害者の通級、外国人児童）指導 (+687人)

2、学校における働き方改革の推進のための支援スタッフの充実 (190億円)

① 補習等のための指導員等派遣事業 (84億円)

・ 教員業務支援員の配置 (45億円)

・ 学力向上を目的とした学校教育活動支援 (39億円)

・ 中学校における部活動指導員の配置支援事業 (12億円)

② スクールカウンセラーの配置充実 (56億円)

③ スクールソーシャルワーカーの配置充実 (21億円)

④ 看護師、外部専門家の配置 (28億円)

二 GIGAスクール構想の着実な推進と学びの充実

1、GIGAスクール運営支援センター整備事業 (10億円)

2、GIGAスクールにおける学びの充実 (4億円)

・ アドバイザー等による自治体支援事業 (2億円)

・ ICTを活用した指導力向上支援事業 (新規0.7億円)

・ 情報モラル教育推進事業 (0.6億円)

・ 児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究 (0.7億円)

3、学校ネットワークの今後の在り方に関する実証研究 (1億円)

・ 初等中等教育段階のSINET活用実証研究事業 (3億円)

・ 校務系・学習系ネットワークの連携に関する実証研究事業 (0.9億円)

4、学習者用デジタル教科書普及促進事業 (23億円)

5、次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進 (1億円)

三 幼児教育スタートプランの実現 (50億円)

1、「幼保小の架け橋プログラム」の開発・推進 (2億円)

2、幼児教育の質の向上を支える自治体への支援 (3億円)

3、意欲ある施設の幼児教育の質を支える (42億円)

・ 教育支援体制整備事業費交付金 (12億円)

・ 認定こども園施設設備交付金 (25億円)

・ 私立幼稚園の施設設備の充実 (5億円)

四 学校保健の推進と感染症対策の充実等 (65億円)

1、学校保健の推進と感染症対策の充実 (5.7億円)

2、学校給食・食育総合推進事業 (0.8億円)

五 いじめ、不登校、虐待、自殺対策等の推進 (80億円)

1、いじめ対策、不登校支援等総合推進事業 (80億円)

・ 専門家を活用した教育相談体制の整備・関係機関との連携

- 強化等 (80億円)
- いじめ対策・不登校支援等推進事業 (4000万円)
- 有識者会議識者会議等開催経費等 (3000万円)
- 2、夜間中学の設置促進・充実 (8000万円)
- 3、児童生徒性暴力等防止推進事業 (100万円)
- 六 新時代に対応した高等学校改革の推進 (9億円)
- 1、新時代に対応した高等学校改革推進事業 (2億円)
- 2、マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業） (3億円)
- 3、WVLSコンソーシアム構築支援事業 (2億円)
- 七 教育課程の充実 (25億円)
- 1、理数教育の充実のための総合的な支援等 (19億円)
- 2、小・中・高等学校を通じた英語教育強化 (4億円)
- 八 道徳教育の充実 (42億円)
- 道徳教育の抜本的改善・充実等 (42億円)
- 九 子供の体験活動の推進 (1億円)
- 健全育成のための体験活動推進事業 (1億円)
- 十 キャリア教育・職業教育の充実 (4億円)
- 次世代地域産業人材育成刷新事業 (2億円)
- 十一 切れ目ない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実 (42億円)
- 十二 学校をプラットフォームとした総合的な子供の貧困対策の推進等 (28億円)
- 十三 高校生等への修学支援 (4323億円)
- 高等学校等就学支援金交付金等 (4142億円)
- 十四 義務教育教科書の無償給与 (460億円)

令和4年度東日本大震災復興特別会計予算（案）

（初等中等教育局関係分）

- 1、児童生徒等のケアや教育支援等 (30億円)
- 緊急スクールカウンセラー等活用事業 (17億円)
- 被災児童生徒に対する学習支援等のための教職員加配 (13億円)
- 2、被災児童生徒就学支援等事業 (9億円)
- 3、復興を支える人材の育成など地域における暮らしの再生 (2億円)
- 福島県教育復興推進事業 (1億円)
- 福島イノベーション・コースト構想等を担う人材育成 (1億円)

令和4年度 文部科学省予算案に対する意見

全連退では、質の高い学校教育を実現するため、教育条件の整備・充実を期し、文部科学大臣に対し教育関係予算の拡充を要請してきました。次年度の予算案に対し、意見を述べる。

○ 義務教育費国庫負担金が前年度より150億円減額。急激に進展する社会に生きる子供たちに求められる資質・能力を学校教育で育成するための支援としては不十分である。

また、義務教育費国庫負担率を二分の一への復元を要望する。

○ 学校における働き方改革や教職員定数の改善等について改善が進められている。一層の改善を期待する。

○ いじめ、不登校、虐待、自殺対策等の推進は、学校だけでなく社会全体で取り組む体制を推進すべきである。

福利厚生情報

生涯福祉部長 岡野 仁司

公的年金2年連続減少

厚生労働省は1月21日、2022年度の公的年金の支給額を前年度から0・45%引き下げると発表した。減額改定は2年連続となる。

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらないことにより、経済状況の悪化などが影響し、改定の指標となる現役世代の賃金が下落したことが影響したと考えられる。

厚生労働省の試算によると、2022年度に支給を開始する人の支給額は、自営業者らの国民年金（満額）で月額6万4819円（前年度比25%減）、厚生年金は夫婦2人の標準的世帯で月額21万9592円（前年度比93%減）となる。4、5月分

をまとめて支給する6月から新たな金額を適用することになる。支給額は、直近3年の賃金と前年の物価の変動率に応じて毎年度改定されている。

基準となる変動率は賃金が0・4%減、物価は0・2%減で、今年度分から適用された新しいルールに基づき、賃金に合わせて支給額を減らす。

将来の給付財源に備えて現在の給付の伸びを抑える「マクロ経済スライド」は、物価と賃金が上昇した場合の措置のため、今回は発動されない。

物価上昇が4か月連続
電気代、食料品などが高止まり
総務省が1月21日に発表した2021年12月の消費者物価指数は、値動きの大きい生鮮食料品を除く総合で100・0と前年12月に比べて0・5%上昇した。プラスは4か月連続となる。

電気代などのエネルギーが前年12月に比べ16・4%伸び、08年8月（17・0%）以来、13年4か月ぶりの上昇幅となった。

特に資源価格の影響を数か月遅れで受ける電気代が13・4%と、約41年ぶりの大幅な伸びを見せた。

ガソリンは22・4%、灯油は36・0%上昇している。生鮮食品を除く食料品は1・1%と、前月と同じだった。

デジタル化の推進策の一つとしてマイナンバーカードの活用
岸田首相は1月20日の参議院本会議でマイナンバーカードの利用に関して表明した。

マイナンバーカードの普及はデジタル化の中で重要視されており、国は来年3月末までにほぼすべての国民に交付することを目指している。カード自体の

利用用途としては健康保険証や本人確認書類、多くの自治体ではコンビニエンスストアでの住民票の写し等の取得も可能になっている。

運転免許証との一体化も計画され、今後、民間サービスも含めて用途は拡大される見込みである。

ただ、同カードの普及の障害となつているのが申請の手続きである。インターネットなら比較的容易だが、申請書類を郵送する場合は、用紙への記入や写真の準備などが必要となる。

マイナンバーカードの新規取得などに対する最大5000円相当のポイント付与は今年の1月1日から開始されている。また、健康保険証の利用申し込み、公金受取り口座登録に対する合計1万5000円相当のポイント付与は6月頃から開始する予定である。

教育振興の要望書を郵送

務です。

例年、全連退本部役員が衆参議員会館へ出向いて行う、文科大臣、副大臣、衆・参両院の文部科学委員会理事等の国会議員への教育振興・教育の日の制定に関する要望書提出を、今年も新型コロナウイルス禍により直接の手渡し・説明等ができないため、12月17日に郵送しました。教育振興に関する要望内容は次の通りです。

教育の振興に関する要望書

日ごろから、教育の振興に対して心強いご支援を頂き感謝申し上げます。

次世代を担う子供たちの健全な成長は全ての大人たちの願いであり、子供たちが全国どこで生まれ、どんな家庭に育ったとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにすることは、私たち大人、そして国の責

要望事項

償化すること。

我が国は今、新型コロナウイルス感染症防止・ワクチン接種と社会・経済活動再生の渦中にあり、全国各地の学校・教職員は、教育活動のさまざまな制限・中止等の中で頑張っている子供たちの学習の遅れを取り戻し、不安を取り除き、学習指導要領の全面実施に向けて、全ての子供にきめ細かい指導を行き届かせようと取り組んでいます。

子供一人一人の学びを保障し学校教育の充実・振興を図っていくためには、教育現場への人的・物的両面からの大胆な財政支援、とりわけ教職員の定数改善が不可欠であり喫緊の課題です。

私たち全国連合退職校長会は、全国四十七都道府県の会員、約八万五千人の総意として、左記事項を強く要望いたします。特段のご高配をお願い申し上げます。

一 教育の機会均等と教育水準の維持・向上を図るため、義務教育制度の根幹を為す義務標準法、義務教育費国庫負担制度、教科書無償給与制度等を堅持するとともに、国庫負担率二分の一への早期復元に尽力されたい。

二 第八次教職員定数改善計画の策定、並びに学習指導要領の円滑な実施に向けた左記事項の実現に尽力されたい。

(1) 小学校高学年に教科担任制を導入するため、「英語」をはじめ各教科の専任教員を配置すること。

(2) 全ての子供へのきめ細かな指導により「個別最適な学び」を実現するため、中学校も三十五人の少人数学級に引き上げる。

(3) 今後の臨時休校等に備えて、一人一台学習端末機周辺のICT環境の整備を急ぎ、家庭での「オンライン学習」に必要な「デジタル教科書」を無

(4) 特別支援教育充実のための「合理的配慮」を支える基礎的環境、並びに特別支援学校設置基準に拠る教室等の整備を促進すること。

三 スクールカウンセラーや部活動指導員、スクールサポート・スタッフ等を増強し、「学校における働き方改革」の一層の推進、教員の勤務環境の適正化に尽力されたい。

四 教育界に優秀な人材を得るため、人材確保法を堅持し、教員の給与等に関する特別措置法の改正・処遇の改善、並びに教員の養成・採用・研修体系と免許制度（免許更新講習を含む）の改善に尽力されたい。

五 未だ復興途上にある東日本大震災・原発事故をはじめ、全国各地で続発している地震・豪雨等の自然災害で被災された地域の復興・教育再生のため、迅速かつ積極的な支援に尽力されたい。

子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と
学校における働き方改革の推進等を求める全国集会 開かれる

令和3年11月16日、「子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と学校における働き方改革の推進等を求める」全国集会が、参議院議員会館で開かれた。今年も、新型コロナウイルス感染症予防のため出席人数が制限され、参加者総数は約100人、載する。

子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と
学校における働き方改革の推進等を求めるアピール

次代を担う子供たちの健やかな成長は、すべての大人たちの願いです。子供たちが全国どこに生まれ、どんな家庭環境で育ったとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにすることは、私たち大人、そして国の責務です。

Society5.0時代の到来を見据え、子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するとともに、今般の新型コロナウイルス感染症対応を踏まえ、安全・安心な教育環境を確保しつつ、すべての子供たちの学びを保障するためには、学校の指導・運営体制の充実やICT教育環境の整備等、新しい時代の学びの環境整備を進めることが不可欠であり、小・中学校のみならず、高等学校、特別支援学校等あらゆる学校の教育環境の改善を実現し、より一層良質な教育を子供たちに約束することが、私

たち教育に携わる者の責務であります。その中でも、学校教育の直接の担い手である教職員の資質能力の向上と数の充実は、とりわけ重要です。

加えて、教員の長時間勤務は看過できない状態であり、持続可能な学校の指導・運営体制の構築に向け、学校における働き方改革の推進は急務となっております。

以上のことを踏まえ、私たちは日本のすべての人々に、次の事項の実現を強くアピールします。

一、ICTの効果的な活用を含むきめ細かな指導の充実、個別最適な学びと協働的な学びの実現及び次なる感染症等の緊急時においても、すべての子供たちの学びを保障するため、中学校・高等学校も含めた少人数学級の計画的な整備を図るとともに、教科指導の専門性を持った教員による小学校高学年の教科担任制の推進を図るための教職員定数の改善を行うこと。

一、教育現場が抱える様々な課題への対応、感染症対応、教員の負担軽減による教育の質の向上を図るため、右の定数改善に加え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置促進やSNS等を活用した相談事業を推進するとともに、教員業務支援員、学習指導員、部活動指導員の配置促進を進めること。また、東日本大震災をはじめとする地震や豪雨等の自然災害により被災した児童生徒のための教職員やスクールカウンセラーによる支援を今後も継続的に行うこと。

一、一人一台端末環境における本格的な教育活動が全国の学校

で展開される中、すべての子供たちの学びを保障し、より一層質の高い教育活動を実現するため、運用面への支援も含めた学校のICT環境の整備充実を進めること。

一、意欲と情熱をもって教育に取り組み優れた教職員を確保するため、人材確保法の趣旨や令和四年度に実施予定の勤務実態調査の結果を踏まえた教員の処遇改善に努めるとともに、教育の機会均等とその水準の維持向上を図るため、その根幹となる義務教育費国庫負担制度を堅持すること。また、地方財政を圧迫し、人材確保に支障を生じたり、地域間格差が生じたりすることのないよう、義務教育費国庫負担金及び地方交付税の財源確保を行うこと。

一、教育投資は未来の日本への先行投資であり、国の最重要事項であることから、右に掲げる諸方策の実現にあたっては、既存の教育予算の削減や付け替え等によるのではなく、計画的・安定的な財源確保を行うこと。

子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する

教育関係団体連絡会（教育関係23団体）

日本PTA全国協議会、日本教育会、全国市町村教育委員会連合会、全国都市教育長協議会、中核市教育長会、全国町村教育長会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国公立小・中学校女性校長会、全国特別支援学校校長会、全国連合退職校長会、全国高等学校校長協会、全国公立学校教頭会、全国特別支援教育推進連盟、全国へき地教育研究連盟、日本連合教育会、全国養護教諭連絡協議会、全国公立小中学校事務職員研究会、全国学校栄養士協議会、日本教職員組合、全日本教職員連盟、日本高等学校教職員組合、全国教育管理職員団体協議会

地方の会報紙より



福島県公立学校退職校長会会報

「松風」第182号

湿原ガイドとして

南会津支部 五十嵐 利明

駒止湿原案内の会に所属し、毎年五月から十月まで三回程のガイドと月四回程の湿原の監視活動に携わり、十年になる。

これまでに県内外からの団体や個人、学校の子ども達を案内してきたが、満足できた案内はあまりなかった。しかし、案内後感謝や感動の言葉で喜んでもらえるにつれ自信が付き、今に至っている。

趣味としてガイドを始めたわけではないが、子ども達や入山者との交流が楽しく自分に元気をもらえる良い機会となり、今では生きがいの一つとなっている。

身近な湿原で豊かな自然を満喫し心を癒せる幸せや、ガイド

仲間とその時々湿原の状況や植物の情報と交換し合い新たな発見や疑問に出会い解決する喜びを感じる一方、浮かび上がったきた湿原保護に関する課題の大きさに困惑する事態にも直面している。

国指定天然記念物駒止湿原の豊かな自然の魅力と現状を伝え、自然保護を最重点として、体力と気力が許す限り他の会員と共に活動を続けたいと思っている。



新潟県公立学校退職校長会

「会報」第63号

つながり広がる

「バラの園」

高田支部 古川 玲子

「バラに囲まれて過ごしたい」これが長年の私の夢。園は空き家となっている実家の庭。住宅街の一角。目の前は県立高田高校。若者たちの活気ある姿や声は、私に若々しさと気力を注入してくれます。

バラ初心者私の私。必死で本を

読みました。友人から話を聞き、県内外の庭を見て回り、自分なりのイメージを作りました。

「バラ友」もできました。おかげで時期になると百本を超えるバラが色とりどりに咲き乱れます。

強風や大雨のときは、枝が倒れていないか真夜中に見回りに行くこともあります。翌朝、無事を確かめ一安心。消毒したのに虫が大発生。悔し涙。世話をしている近くを通る小学生が

「お仕事ご苦労さまです」と声を掛けてくれることもあります。疲れが吹っ飛ば瞬間。近所の方に「素敵なバラですね」と褒められ、さらにやる気全開。

毎年5月には「バラを観る会」を開催。来園者と語り合うスペースも用意。地域の方と



の花談義や情報交換は、私のさび付いた脳を活性化してくれているようです。実家の庭をバラで模様替えし、「地域に恩返しをしたい」という想いも今実現しつつあります。

少年高齡化が加速している今、私のバラ園が地域の皆さんの心をつなぎ、さらには安らぎの場の一つとなればと願っている毎日です。



福岡県退職小学校長会

「会報」第122号

「好奇心からの贈りもの」

三猪支会 松永 睦子

今までと180度違う自分発見を試み、退職後、様々な教室見学の最中、小さな新聞広告に惹かれ、出会ったのがフラメンコでした。

外国人講師によるグループレッスンの様子と「バラを口にして踊るイメージは払拭されますよ。」「群舞でも個の表現は出来ます。」等の事務方の説明が

決め手となりました。でも、何と言っても還暦すぎの初心者です。レッスン後の帰りの車内で今習ったばかりのフリが思い出せず戸惑う事も度々。見兼ねた先輩方が設定してくれた予備レッスン日に救われました。その後、日本人講師になってからは言葉の壁もとれ、講師の動きの美しさへの憧憬と、知る↓出来るの小さな喜びの積み重ねがステップアップへのエネルギーとなっていました。

二年に一度の発表会は全員参加が原則で、当日はフラメンコ界では有名なギタリスト、カンテ（唄）、パルマ（手拍子）、ハレオ（掛け声）が揃い、そこにバイレ（踊り）が入り、全部が呼応し合って曲が創造されていきます。当日の講師のステージは圧巻で、ご褒美のようなこのステージを見たくて、我が身の練習不足を呪いながらも夢中で音に集中し踵をならします。何回かの発表会を経験して、初めて自分達のステージで会場と一体化できたと感じた時の内側か

ら響き合うような静かな高揚感、自分の探していたものに触れた気がした忘れられないシーンとなりました。

もう一つ、並行して通っていたのは九州市民大学です。月に一度の豪華な講師陣から届けられる、あらゆる分野からの知的エネルギーのシャワーを浴び、触発され、今更ながらに奮起するひとときでした。中でも野外研修での中国総領事館見学は、個人ではできない貴重な体験で、懇談会や領事夫人手作りの水餃子の味等、記念写真を見る度に思い出す一コマです。

月に一度、週に二度のお出かけリズムは、他の行事と共に体が意識したようで、殆ど休まず通い毎日が新鮮でした。15年経過を期にフラメンコは卒業しましたが、家事の合間の肩甲骨の開閉やつま先立ちは無意識に続いています。

埼玉県退職校長会



「会報」第174号

洪沢栄一記念館での

今と昔

深谷 篠田 鼎一郎

2024年から1万円札の肖像が福沢諭吉に替わって洪沢栄一になる。2021年NHK大河ドラマは洪沢栄一を主人公にした「青天を衝け」を放送。いやが上にも洪沢栄一に対する関心は高まり、コロナ禍にも関わらず洪沢栄一記念館（以下、記念館）へは連日数百人から千人を超える人が集まっている。

記念館に私が関係したのは「館長」として平成13年から5年間、また平成20年からは現在まで「資料解説員」として関係している。館長としての時代は勿論、解説員としての昨今も、記念館を訪れる人の数は3年前までそれ程多くはなかった。それでも洪沢栄一に関心を持ち、研究をしている人は日本全国から

来館していた。一日一人も来ないという日はほとんどなかった。

「館長時代」、記念館の職員は館長の私と、同じ建物に同居している八基公民館の館長補佐が記念館の館長補佐として兼務しているだけであった。仕事は公民館の職員が協力してくれていた。

現在、記念館の組織は充実し、館長や館長補佐を始め、私のような解説員4人を含め20人もの大所帯になっている。専門の芸員も数人おり展示や活動の内容も以前とは隔世の感がある。

記念館勤めの思い出は多々あるが、なにせ学校勤めを定年で退職し翌日から記念館に関わったのであるから、肝心の洪沢栄一についての知識は、というと教職時代に薦められて読んだ城山三郎の小説「雄気堂々」や洪沢秀雄著の「洪沢栄一」からのものくらいであった。

そのような状態であっても、洪沢栄一についての疑問、質問は記念館へ寄せられた。

問い合わせをする人たちは

「洪沢栄一記念館」へ尋ねれば何でも分かると思うのであろう。その都度調べたり研究家に聞いたりして返答した。

おかげで現在は解説員として、お客さんからの質問にも答えられるようになり、楽しく仕事が出来ている。

何より嬉しいのは、説明・解説を聞いてくれたお客さんから「よく分かりました」と云われた時である。教諭時代、「分かる社会科」の授業をすることに努力してきたのだから、と心の中で自己満足。有り難うございました。



岡山県退職小学校校長会

「会報」第36号

復興に向けて

倉敷市真備支部

松永

喜樹

平成三十年七月の西日本豪雨。

大規模な越水や堤防の決壊。

大正十四年の高梁川大改修以前の惨事は昔語りとして聞かされてきた。もしかしたら、の危ぐ

とともに。

浸水が始まってからも「まさか」の思いから避難を躊躇した人も。「じいちゃんあぶない。

避難しよう。」孫の言葉で命拾いした、と語る先輩。深夜の激しい雨音が正確な情報と冷静な判断力を奪っていた。

「これらは全部片づけてくれ。」泥まみれになった思い出の品々。連日の炎天下の片づけは体力と気力を徐々に奪っていく。気丈にふるまう被災された方々。ボランティアの複合的な支援が支えになった。現役・OBの教職関係の仲間も復旧の現場や後方支援の場で要となってくださった。

学校、幼稚園、保育園、児童館、公民館、倉敷市役所真備支所、図書館やマービーふれあいセンターなどの公共施設は順次復旧。災害公営住宅も新築された。仕上げは令和五年度完成予定の小田川と高梁川の合流地点の付け替えと堤防のかさ上げ・補強工事。安心・安全なまちに近づいている。

被災直後からの炊き出しや地域の小さな集まり。直接会って何気ない会話を楽しむことが避難でとぎれていたつながりをもう一度紡いでいった。回を重ねるごとに。

あれから三年半。新しい家に交じる更地。以前と同じ、にはなっていない。子育て世代の転出がじわりと進んでいる。幼稚園世代は特に深刻だ。

統計は悲観的。

ふりさけみれば、常連さんの後押しで再開したなじみの店。新たな店舗。元の場所でのリフォーム。新築して転居してきた家族。先人から受けついだ田畑や山林を守る人々。たけのこ、果樹、野菜、米、ひと手間加える生産者。復興を支える事業者。真備の魅力は何だろう

おかれた立場で見える景色は違ってくる。真備に縁あるすべてのひと、それぞれが歩を進めていけばきらりと光る魅力が、うまれてくるはず

みつかるはず、そしてつながるはず

復興はきつとその先に



宮崎県退職校長会会報

「芳馨」第95号

スポーツの力

西諸支部 堀 太平

開催への意見は様々であったが、東京オリンピック・パラリンピックをテレビ観戦しながら、改めてスポーツの力を感じた。

特に個人的に盛り上がったのは、バスケットボールのオリンピック女子代表とパラリンピック車いす男子代表のゲームである。両代表とも、粘り強い守り、スピード、外角シュートなど、体格の劣る日本人でも戦略や戦術次第で世界に通用することを見させてくれた。毎ゲーム、選手が緩み、元気が湧いてきた。

もう一つ、私を元気にしてくれたのは、パラリンピック女子マラソン視覚障害のクラス、西島美保子さんのレース。脚のけいれんを乗り越え、3時間29分

12秒の8位でゴールした六十六歳の姿は、人間の可能性は無限であることを示してくれた。

「やっぱり、スポーツっていいなあ。」



岐阜県退職校長会会報

「彩雲」第198号

私の楽しみ

飛騨市支部 中村 康子

「えっ、なんでや」「あっ」紙芝居を取り巻いている子どもたちの輪の中から、小さな声が漏れ出してくる。すると、始まるまで片隅に座っていた子が、そっと輪の中に入ってきた。じつと息を凝らして見入ったり、表情を変えながら聞き入ったりと、一人一人様々な思いを抱きながら、紙芝居の世界に浸ってきている。そんな子どもたちの姿に、一喜一憂しながら、私自身も紙芝居の世界へと、いつしか浸っていくのである。

紙芝居には、読み手、聴き手が一緒にあって創り上げていく面白さがある。しかし、そこが最も難しいところで、どこを山場とするのか、登場人物の性格はどうなのかと、毎回、紙芝居にとらめっこしながら、練習に取り組んでいる。幼少時、駄菓子を食べながら、自転車に積まれた紙芝居に夢中だった私。日本にしかない紙芝居の文化を今だからこそ、大切にしていきたいと思う。

中学時代の恩師との出会いから始まった紙芝居。この素敵な縁を活かして、現職時代と違った子どもたちとの繋がりを楽しみたい。



愛知県退職校長会

「会報」第45号

ひとりブラタモリ

元江南・布袋小 土井 謙次

退職したとはいえ、フルタイム勤務が続いている。しかし、校長時代とは背負うものが全く違い、見える景色も異なる。現役校長には頭が下がる。



退職してからより強くなった知的好奇心。街角の祠、不自然な傾斜地、地名など、その由来や意味を調べたくなくなってしまふ。手にするのは、スマホ。過去と現在の地図が比較できる「今昔地図」、その土地の地盤情報が分かる「地盤マップ」、標高がcm単位で分かる「スーパード地形」などのアプリを見ながら周辺を探索する。

先日、たまたま所用で訪れた東京・品川。時計を見ると、ちよつとしたすき間時間がある。そこでひらめいたのが、「大森貝塚」。社会科教師にとっては

考古学の聖地である。京浜東北線で大森駅まで行き、スマホを見ながら向かった。地盤、標高をチェック。東側を見ると、京浜東北線を走る電車の屋根が見える。明らかにこちらが高い。台地の端に当たり、縄文の集落があっただろうと想像できる。

北に進むと大森貝塚遺跡庭園があった。貝塚を発見したモース博士の胸像、貝層の剥離標本などが整備され、学習施設となっている。

スマホの情報を併せると、貝塚がここに存在する意味がわかる。過去と今がつながるのである。

次はどこへ行こうかな？これが私の「ひとりプラタモリ」である。



北海道退職校長会

「退職校長会だより」第238号

庭を歩く

帯広支部 坂井 弘子

思いつきり深呼吸！

マスク越しでも新鮮な空気が体に充たされ、心が癒やされていきます。

このコロナ禍の日々、趣味の例会や諸会合が軒並み中止となり、持病の定期通院さえ感染が怖くて、つい足が遠のいてしまっています。

ひたすら家に籠る毎日。それは私に限ったことではなく、多くの高齢者が似たような状況に陥り、それが健康被害を引き起こしていると言われています。

歩かなくなると衰えるのは足腰だけではありません。心も。笑い方も話し方さえも忘れてしまひそうで怖いのです。

自分なりの回避策を模索していると、思いついたのが「庭歩き」でした。

十勝ヒルズ、六花の森、紫竹ガーデン、真鍋庭園、千年の森ヌップクガーデン、大森ガーデン。以前から十勝・帯広の庭園の数の多さとその格調の高さには定評があり、勝手に「ガーデン王国」と名付けていたくらい私です。

何より直ぐに訪問できる広い庭は、三密には無縁。四季折々に咲く花々の可憐さに目を細め木々の葉の擦れる音を聞きながら、ゆるゆると歩を進めていると、いつの間にか歩数計は前日の倍の数を示しています。

水筒とカメラ、時にはスケッチブックを持参すると、庭歩きインターバルも充実できます。園内の椅子には、本を読む人も。 「ガーデン巡り」はそれぞれが自分流の健康づくりを楽しめる場所だと再認識しています。庭以外、近隣の公園を歩くことも同様の成果が期待できるでしょう。

ふと見上げると庭の木々は色づき、秋の気配を深めています。慣れ親しんだ庭歩きは間もなくお休みしなければなりません。今のうちに、この美味しい空気をたっぷり吸い込んで、心のデトックスをしておこうと、深呼吸している私なのです。



五反田だより(事務局)

早春賦(吉丸一昌作詞)

♪春は名のみ風の寒さや
谷の鶯 歌は思えど

時にあらずと声も立てず
時にあらずと声も立てず

立春を迎えてもコロナ感染は収まらず、事務局ではアクリル板を挟んで新年度の組織運営について話し合っている。

都内の感染が激減した昨年末、教科書協会に出掛け、令和六年度から本格的に導入予定の「デジタル教科書」の研修(事業委員会)に参加した。

デジタル教科書は紙の教科書と同じ内容であるが、タブレット端末を使用して文字や図表の拡大、漢字にルビ、音声読み上げ、書込みや保存などの機能を有効に活用できる。
他のデジタル教材や電子黒板等のICT機器を一体的に使用することによって更に学習効果を上げることができる。

今年度から全国の小・中学校(約四割)で各教科のデジタル教科書活用について実証事業が進められている・・・など、協会の講師の話である。
読解力や思考力、書く力などは育てられるのか。

子供の視力や姿勢などに弊害が出るのではないのか。
教員のICT指導力は大丈夫なのか。

家庭への持ち帰りに保護者の理解や協力を得られるのか。
紙の教科書と同じように無償給与になるのか。

紙の教科書は、無くなってしまうのだろうか・・・
情報化社会の進展に追い付いていけず、スマートフォンも思うように使えない私は、コロナ禍の片隅で独り呟いている。

♪春と聞かねば知らずでありしを聞けば急かる胸の思いをいかにせよとのこの頃か
いかにせよとのこの頃か

(H・S)

◇1月

- 11 教育課題委員会
- 13 部長会

◇2月

- 1 部長会
- 14 広報部会
- 16 部長会・組織検討委員会
- 21 広報部会
- 25 年間紀要最終校正
- 28 広報部会

◇3月

- 7 部長会
- 14 教育振興部会
- 15 生涯福祉部会
- 16 教育課題委員会
- 18 会計部会
- 23 事業委員会
- 23 部長会

令和4年度の理事会及び総会の日が決まりました。

- 理事会 6月6日(月)
- 総会 6月7日(火)
- 会場 品川区立荏原総合区民館

編集後記

○一段と寒さの厳しかった冬も終り、暖かな春がやってきました。コロナ禍が収束しないようですが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

○「都道府県だより」からは、それぞれの退職校長会がこの困難な時期を、知恵と工夫で乗り越えようとされている様子が伝わってきます。
○地方の会報紙からの記事も多く転載させていただきました。

○本年度最後の会報を無事発行できました。今回も皆様方のご協力で、原稿が予定通りの期日に集まりました。ありがとうございます。

全連退会報(223号)

発行 令和四年三月十五日
発行所 東京都品川区東五反田

五二一三三三〇八

全国連合退職校長会

電話 〇三三四四二八七六八

FAX 〇三三四四二八七六八

Eメール info@sementary.org

振替口座 〇〇一九〇九四七二〇

○責任者 入子 祐三

印刷 株式会社 信行社

電話(〇三)三三三三三六二二